

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101473		
法人名	のみやま 有限会社		
事業所名	グループホーム おさ (2階)		
所在地	〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐3丁目40番30号 TEL 092-588-5611		
自己評価作成日	令和03年07月15日	評価結果確定日	令和03年09月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年09月03日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念のもと、「その人らしく」を大事にし支援に努めている。また、ご家族様との関係性を大事にしている。何でも相談できる様な環境作りにも努めている。コロナ禍前までは、年間行事を立て、毎月入居者様が楽しんで参加できる様な支援を心掛け、笑って過ごせる毎日を提供できるよう担当者が、工夫をしながら励んでいた。コロナ禍の現在でも、毎月室内で出来るイベントと称して、お好み焼きパーティー、BBQ、七夕、桃の節句などの催しを開催して、1階・2階と交流を図りながら、楽しみを増やし、支援に努めている。今年のテーマが「大変だ～」と言わない職員を育て、利用者の立場に立って、職員本位のケアを押し付けない支援を目指す。を掲げました。各スタッフが志を高く持ち、入居者様の毎日の支援を責任・誇りをもってプロとしての自覚を身につけ、まい進して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」を理念に、日々の介護現場にての実践に心がけている。スタッフ本位の介護ではなく、入居者本位の支援に努めるよう、職員全体で取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、カフェ、買い物などを通して、事業所全体で地域の一員として交流を図っていたが、コロナ禍の中難しい状態である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談や、ホーム見学等を受け入れて、認知症サポーター講座の開催の協力などで認知症の方々の理解を、支援方法を提案したりしてきているが、コロナ禍の中で、現在は電話での問い合わせ等に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	年/6回の、ホームでの取り組みを、状況を報告し、近隣の事業所と協力し支援の向上に努めてきているが、現在は、電話での状況報告等に対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等にて協力を仰いでいたが、現在の状況としては、包括の職員との相談を行いながら、協力して頂いている。行政等の不明な点は、直接電話にて対応を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に、年4回の内部研修を行い、徹底して拘束をしない介護、ケアに取り組んでいる。新人研修において、必須で勉強会を開いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に、年4回の内部研修を行い、徹底して虐待をしない介護、ケアに取り組んでいる。特に精神的虐待におけるプライバシーは特に注意し接するように新人研修において、必須で勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業、成年後見に制度ついて、年1回の勉強会の開催をし、理解を深めるようにしている。現在後見人制度を活用し支援をこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、入居説明を一つずつ、説明を行いながら進めている。理解が得られるまで、納得して頂いた上での契約としている。また、その都度入居後も説明、納得して頂いている。変更等があった場合は、速やかに書面・対面にて説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、プランの見直し等、要望を、ご意見を頂き、反映させれるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の会議を月1回行い要望や意見を聞く場を設けている。また、その都度、個人面談を行い意見等を聞きながら、運営に反映出来る様な体制を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員のスキルアップを目指すために、資格取得の体制を整えている。休み希望を毎月申請してもらいながら、休み希望100%を目指し働きやすい職場を目指している。また、頑張ろうと思える職場を作っていくように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・資格に囚われず、仕事に対する姿勢や、考え方・人柄を重視して採用していくようにしている。個々のスキルを発揮できる、協調性を持った職場作り、働くことにより社会参加が出来る喜びを持つような職場実現に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発の外部研修の参加を行い、職員に内部研修にて周知を行っているが、昨年は内部研修のみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修から、外部・内部研修において、職員の職員による研修を含め、希望があれば介護技術向上のため、外部の研修、実務者を含めた研修に働きながら参加できる体制を整えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの事業所との交流、訪問を行い相乗作用で質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のご本に様との対面や、ご家族様・ケアマネ様との連携より、要望・意向を把握しここの生活が、安心して過ごせる様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前のご家族様の要望・意向・不安事項を把握しながら対応に努め、その都度対応しなんでも相談できる関係性を深めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の、今のニーズは何か、ご家族様・ご本人様との対話から見出しサービスに繋げるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」を理念のもとに、共に暮らす者同士として、手助けをして頂いたりしながら、信頼関係を築いていけるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的なご家族様の、施設行事への参加の呼びかけを行いながら、ご家族様との絆を大事に行き、お父様・お母さまと一緒に支えて行くような関係性を作り、信頼関係を築いて行けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来得る限り、ご家族の方・入居前の関係者の面会等、交流を深める支援を行いながら、途切れない関係性の支援に努めている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立をせず、入居者様同士協力し合い、皆で関わられるようなレクの支援を心がけ出、来る事の喜びを感じて頂けるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した後も管理者・スタッフ一同、家族との関係を気遣いながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意見や家族の要望・日常の本人様の気持ちを模索しながら、ご本人様本位の支援を心掛けている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なかなか、生活歴を把握する事は難しい面もあるが、本人様の一人ひとり今までのサービス利用歴や情報を収集し、サービス利用の支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人一人ひとりにあった生活能力を生かし、毎日の心身の状態を把握しながら、その日の支援を相談し、ケアを行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の現状、ご家族様の要望を取り入れ、担当者の意見、他職員の意見を取り入れながら、より良い暮らしが支援できるように意見を出し合っ、計画作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの様子や体調変化等、個別記録や申し送りノートを活用し、スタッフ間で情報共有や実践を行っている。その都度、介護計画の作成の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の状況に応じて日々の生活はもとより、医療機関への付添・外出支援等、緊急時の対応など、入居者・ご家族様に合わせて柔軟な対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の催しがあればお誘いがあるが、コロナ禍の状況で行事が中止が多くできていない。ホーム内でできるレクリエーション等実施している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族の要望を大切にして緊急時は医療機関の受診もスムーズに対応している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内での生活を支援しながら、体調変化などあれば医療機関に報告し迅速かつ適切な対応を行い、早期発見に努め、重度化させない体制作り、支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、アセスメントや情報を提供し、医療機関とは連絡・情報交換を行い、良い関係作りを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に備え、ご家族様やご本人など意見を汲み取り、話し合いを実施した上で方針を共有し終末期の支援などを行っている。医療機関・訪看・ご家族様・施設との連携にてチームによる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を設置し、職員全員での内部研修を行い、初期対応や応急対応等の訓練を行い実践力を身につけるようにしている。年4回の研修を行いながら、スキルアップを目指している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を職員・入居者、消防署の協力のもと全職員が身につけ、地域との協力体制の構築に努めている。隣の小多規との合同避難訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の誇りやプライバシーを守り、個人の人格を尊重し、言葉遣いに配慮しながら対応している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思、希望を尊重し、自己決定できるような声掛けに心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人が毎日を笑顔で過ごせる様、言葉掛けをし、寄り添っていけるように努めている。その日の状態を把握し、その日ご本人様の気分を重要とし、押し付けない支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容(シャンプー・カット等)に来ていただいている。入浴準備、その日の気分を着たい服選びなどを自己決定にて、支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の入居者は、食事準備のお手伝いが難しく、職員の手作りの食事を全員でゆっくり楽しみながら食事を楽しんでいる。片付けのお茶碗拭きなどは、協力してお手伝いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養バランス・量・形態を考慮している。状態に合わせた食事提供はその都度見直している。毎日の水分量の把握を行いながら支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・義歯の洗浄を行っている。毎週の歯科衛生士・月1回の歯科医師の指導の元、個々に合わせた口腔ケアを心掛けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様に合わせた、排泄支援を行いながら、トイレでの排泄の喜びや、自信を持って頂く様な自立支援を心掛けている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の食材の工夫・乳製品などの提供に気を配り、毎日の体操や廊下歩行などの運動を取り入れて便秘予防に努めているが、それでもと言う方は医師に相談して薬の見直し等を行って頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調を考慮しつつ、いつでも・毎日入浴可能な支援体制は出来ている。意思の決定が難しい方は、そうとも言えなくなってきた。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内環境を整え、快適な温度調整を行いながら、毎日の本人様の意向を尊重しつつ居室にて、休息したり自由な支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの活用・医師・薬剤師との連携にて薬事を把握している。状態に合わせた服薬管理を行い、その都度相談・見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の支援で楽しく・笑って・自尊心を失わない支援・まだまだ役に立っているという自信を継続させられるような声掛けを行いながら、活気ある生活・メリハリある生活が送れるよう支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出支援・散歩、施設行事での温泉・お芝居観劇を行っていたが、現在は、コロナ禍の中出来ていない状況である。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少人数の入居者様は、個人での所持が出来ているので、外出時は自分で支払いなどをされているが、大半の入居者様は、ホームでの管理を行っている。外出時の買い物の支払いは、管理金よりして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、だれにでもご本人様の希望があれば、対応できるような支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、安全・清潔を心がけている。毎日の掃除、消毒を徹底し消毒を行っている。特にトイレでの匂い等での不快を除く様その都度、掃除を行いながら対応している。玄関先・リビングには季節の生花を飾るときもある。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	明るく、安全・安心・清潔・快適に過ごせる環境整備に心がけている。リビングは、皆の顔が見れるソファの配置など顔見知りのいる居心地の良い空間を工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、見覚えのある馴染みの家具や、寝具を使用して頂き、安心して過ごせる様な支援をしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、表札があり自分の部屋だという認識をもって頂き、安心感を持ちながら生活して頂いている。また、手すりなどに夜間でも安全に、トイレ等の移動が出来るように、蛍光テープを使用している。		